

一般質問発言通告内容

代表第1号 氏名 鈴木 裕士

質問項目 No. 1	施政方針について	備考
要 旨	<p>(1) 小牧の未来に向けた行政運営について 新たな任期の始まりに当たり、今後の市政をどのように運営していくか問う。</p> <p>(2) 令和5年度予算について ア 財政運営が厳しい中において、予算編成に留意した点を問う。 イ どのような施策に重点を置いたか問う。</p>	

質問項目 No. 2	小牧市まちづくり推進計画第1次基本計画について	備考
要 旨	<p>(1) 「こども夢・チャレンジNo.1都市」について ア 本市において、具体的にどのような取組を進めていく考えがあるのか問う。 イ 「人口戦略・少子化対策」について、今後どのような対策を講じられていくか問う。</p> <p>(2) 「健康・支え合い循環都市」について ア 市民の健康づくり、健康寿命の延伸に対する取組について、どのような考えで進められるか問う。 イ ウィズコロナ・アフターコロナを踏まえ、自治会活動をどのように支援していくのか問う。</p> <p>(3) 「魅力・活力創造都市」について ア ウィズコロナ・アフターコロナの産業振興を進めていく必要があるが、これに対する支援策はどのように考えているか問う。 イ 中心市街地のにぎわいの創出や活性化に向けた「小牧市中心市街地ランドデザイン」について、小牧駅周辺整備を含め、今後どのように取り組んでいくか問う。 ウ 東部まちづくりについて、「東部振興構想」の実現に向けた取組状況を問う。</p>	

質問項目 No. 3	都市基盤の整備について	備考
要 旨	<p>(1) 道路整備等による渋滞緩和対策について 改めて、現在の状況及び今後の取組について問う。</p> <p>(2) 公園整備について 北西部地区公園の今後のスケジュールについて問う。</p> <p>(3) 上下水道の健全で安定的な事業経営について ア 今年度の「小牧市上下水道事業経営審議会」における審議内容を問う。 イ 来年度の審議会における審議内容を問う。</p>	

質問項目 No. 4	学校教育について	備考
要 旨	<p>(1) 教育環境の整備について 子どもたちが安心して教育を受けられる環境を整えていく必要があるが、今後どのような施策を進めていくか問う。</p> <p>(2) 児童生徒数の減少への今後の対応について 急速に少子化が進み、児童生徒は年々減少していくが、今後どのように対応していくか問う。</p>	

質問項目 No. 1	施政方針について	備考
要 旨	<p>(1) 今後の市政運営について 4期目の出発にあたり、新型コロナウイルス感染症や物価高騰など、市民生活に大きな影響がある中、市政運営にどのような決意で取り組んでいくのか。</p> <p>(2) 子どもを中心とする支えあいのまちづくりについて 市長は施政方針の中で「こども真ん中社会を実現するとともに、すべての市民が暮らしやすいあたたかいまちを目指す」と述べられているが、今後の方針について伺う。</p>	

質問項目 No. 2	予算編成について	備考
要 旨	<p>(1) 予算編成について 近年の制度改正や国の政策による支出の増加が市の財政を圧迫している中で、令和5年度予算編成にあたり、どのように配慮されたか。</p> <p>(2) 健康と生命を守るための新規事業について ア 帯状疱疹予防接種費用助成事業の具体的な内容について伺う。 イ 骨髄提供者等助成事業として、市独自の助成金を上乘せする理由について伺う。 ウ 若年がん患者在宅療養助成事業の具体的な内容について伺う。</p> <p>(3) 狭あい道路整備事業について 市内には多くの狭あい道路が存在し、その解消は大きな課題であったが、今回整備事業に着手することになった経緯と事業の概要について伺う。</p> <p>(4) 高齢者デジタルサポート事業について 社会のデジタル化が進み、その恩恵を誰もが受けられる環境づくりが求められているが、高齢者デジタルサポート事業はその推進力となることが期待されている。 そこで、どのような事業展開を考えているか。</p>	

質問項目 No. 3	子育て及び若い世代に向けての取組について	備考
要 旨	<p>(1) すくすく子育て応援事業について</p> <p>ア 出産・子育てが安心してできるよう伴走型相談支援を行うとなっているが、どのように支援の充実が図られるのか。</p> <p>イ 経済的支援として本市では「たまごギフト」と「ひよこギフト」としてそれぞれ5万円の現金給付が始まっているが、自治体によってはクーポン券やカタログギフト等を利用しての独自な手法で行っているところがある。本市では独自の事業展開を考えているか。</p> <p>(2) ひとり親家庭等支援事業について</p> <p>新しく始まるひとり親家庭等支援事業の具体的な内容について伺う。</p> <p>(3) ヤングケアラー支援事業について</p> <p>ア 今年度に行った実態調査の状況について伺う。</p> <p>イ 今後どのような取組を考えているか。</p> <p>(4) 出会い・結婚支援室について</p> <p>今回行政組織改正で、こども未来部に新たに「出会い・結婚支援室」を創設されたが、その経緯と内容について伺う。</p>	

質問項目 No. 4	不登校児童生徒への多様な教育機会の確保について	備考
要 旨	<p>(1) 校内フリースクールについて</p> <p>ア 学校に行っても教室に入れない児童生徒はどのように対応されているか。</p> <p>イ 校内フリースクールを整備していくお考えはないか。</p> <p>(2) 教育支援センターについて</p> <p>ア 現在の適応指導教室の名称を教育支援センターに変更してはどうか。</p> <p>イ より発展的に相談体制の充実等、機能強化する考えはないか。</p> <p>(3) 夜間中学設置に対する考え方について</p> <p>愛知県では外国人の多い地域を中心に夜間中学を開設していく方向性を示しており、小牧も候補地の一つと思うが、夜間中学設置に対し、本市はどのように考えているか。</p>	

質問項目 No. 1	施政方針について	備考
要 旨	<p>(1) 市長マニフェスト「小牧市の未来へこれからの指針」について 令和5年度の予算編成でも多くの実現に向けた予算が見受けられる。中には単年度では難しい課題もあると考えるが達成に向けたスケジュールについて問う。</p> <p>(2) 4期目の重点施策について 今回の予算編成は山下市長が手がける4期目最初の予算編成になる。予算編成にあたり重きを置いた事業は何か問う。</p> <p>(3) 令和5年度の組織改正について 令和5年度より組織改正が行われるが、その内容について問う。</p>	

質問項目 No. 2	SDGs未来都市について	備考
要 旨	<p>令和3年5月に内閣府から尾張地域で初となる「SDGs未来都市」に選定された。SDGsのゴールは2030年となっており、17の目標と169のターゲットに向けて現在進行形で、行政や民間企業、市民活動団体等で様々な取組を行っているところである。 理想を現実に近づけるためには具体的な行動が大切になってくる。</p> <p>(1) SDGs未来都市の実現について ア 周知啓発の内容について問う。 イ 小牧市SDGs登録制度の詳細について問う。 ウ 具体的政策について問う。</p>	

質問項目 No. 3	ゼロカーボンシティについて	備考
要	<p>本市は「ゼロカーボンシティ」を目指していく事を表明しており、2050年までに二酸化炭素排出量実質ゼロを目指し今後は具体的な政策が実施されていくと考える。宣言当時、環境大臣から届いたメッセージの中にはカーボンニュートラルの実現を進めるためには、今後30年間のうち、とりわけこの5年間、10年間が重要ですとあり、昨年から起算するとこの重要な5年間は、山下市長の4期目任期満了までとなる。</p>	
旨	<p>(1) ゼロカーボンシティの実現について ア 本市の二酸化炭素排出量の現状について問う。 イ これまでの取組状況について問う。 ウ 令和5年度に実施される事業について問う。</p>	

質問項目 No. 4	こまきプレミアム商品券について	備考
要	<p>山下市長就任以来、こまきプレミアム商品券発行事業費補助金は、一年も欠かす事無く毎年予算計上され、近年では新型コロナウイルス感染症の影響もあり、疲弊する経済対策、物価高騰に対する生活支援の重要性も加味して実施されている事もあり、就任当初はプレミアム率10%だったものが、近年では、プレミアム率も20%が定着してきている。マニフェストの中でも、プレミアム率は20%と明言してある。今後の展望について問う。</p>	
旨	<p>(1) 近年の実績について ア プレミアム商品券の販売状況について問う。 イ 登録店舗数の状況について問う。 ウ 印刷費を含む諸経費について問う。</p> <p>(2) 今後の展望について 今後のプレミアム商品券について問う。</p>	

質問項目 No. 1	本市の汚水処理計画について	備考
要 旨	<p>(1) 適正な汚水処理について</p> <p>ア 市街化調整区域を原則、下水道整備区域から合併処理浄化槽区域に変更した理由について伺う。</p> <p>イ 合併処理浄化槽の整備計画について伺う。</p> <p>ウ 過去3年間の単独処理浄化槽及び合併処理浄化槽の設置状況と汚水処理人口普及率について伺う。</p> <p>エ 単独処理浄化槽から合併処理浄化槽への転換状況について伺う。</p> <p>オ 過去3年間の浄化槽転換推進事業補助金制度の利用状況について伺う。</p> <p>カ 合併処理浄化槽への転換時の宅内配管工事費について伺う。</p> <p>キ 指定避難所で合併処理浄化槽を利用したマンホールトイレを設置していく考えはないか伺う。</p>	

質問項目 No. 1	休日急病診療所の診療体制について	備考
要 旨	<p>(1) コロナ禍における受診者の状況について 長期に渡る新型コロナウイルス感染症の影響が続いた昨今。 市の休日急病診療所も混雑し現場も大変だったと思います。 実際、コロナ禍の受診者の状況はどのようなになっていますか。</p> <p>(2) 診療体制について 感染が国内で初めて確認されて3年。常に状況が変化してきた新型コロナウイルス感染症です。 政府は、5月8日に今の「2類相当」から季節性インフルエンザなどと同じ「5類」に移行する方針を決定しました。 位置づけが変わったら、私たちの暮らしにどんな影響があるのか心配するところでもあります。 これまでの受け入れ体制やこれからの受け入れ体制について伺います。</p>	

質問項目 No. 2	第20回アジア競技大会（2026／愛知・名古屋）について	備考
要 旨	<p>アジア最大のスポーツの祭典、アジア競技大会。</p> <p>この大会は、アジアのトップ選手が集い、己の力を発揮する最高の場です。2026年開催の愛知・名古屋大会は、スポーツ界にとって東京オリンピック・パラリンピック競技大会の次なる大きな目標となり、拡大するアジアとの交流を一層深める機会となるなど、日本全体にとっても大変意義のある大会だと思います。</p> <p>2018年8月には、インドネシア・ジャカルタで開催されました。</p> <p>4年後の第19回大会の開催年である2022年は、コロナ禍のため1年延長されました今年の9月に中国の杭州で開催予定であります。</p> <p>(1) 小牧市としての参加・取組について</p> <p>小牧市では、小牧市スポーツ公園総合体育館（パークアリーナ）にて、バレーボール競技の競技会場予定になっており、世界各国から選手が集まり、受け入れ体制の構築やおもてなしなどが必要であり、求められることと思います。県との連携を図りながら準備をしていく時期がきましたが、今後の対応や取組をどのように考えていますか。</p> <p>(2) 子ども達への周知や大会の関わり方について</p> <p>愛知・名古屋は、世界有数の産業力などを背景にアジア地域との結びつきが強く、また、プロや実業団、学生などのスポーツが非常に盛んな地域です。県では、昨年度から小学6年生と中学3年生を対象に、イラストで分かりやすい、小中学生向けパンフレットを配布したそうです。小中学生にアスリートの素晴らしい活躍を、そして、国際的であり競技観戦の機会やふれあいの場も出来るチャンスを有効的に活用した国際交流も出来る大会となると思いますが、子ども達への周知や大会の関わり方をどのように考えていますか。</p>	

質問項目 No. 3	若年がん患者在宅療養支援について	備考
要 旨	<p>(1) 若年がん患者在宅療養支援について</p> <p>12月議会の一般質問では、在宅医療・介護の充実について質問をしました。その際に、市長に対し、在宅医療・介護は、利用者やそのニーズも増え高齢者だけでなく、若年世代のがん患者の事例などもあり、今後は、その若年世代の経済的負担軽減策等を講じて欲しいと所見を伺いました。</p> <p>若年がん患者在宅療養支援の取組を伺います。</p>	

質問項目 No. 1	豊かな土地と健康を守る地産地消・オーガニック推進 について	備考
要 旨	<p>以前議会において、公園などで使用する除草殺虫剤による土壌汚染や健康リスクの問題を提言した。グリホサートやネオニコチノイド系薬剤は、除草殺虫剤以外に農薬としても従来の慣行農法で使用頻度の高い薬剤といわれ、豊かな土地と健康を守る上で、その使用について極めて慎重に考えるべきである。</p> <p>農林水産省でも、みどりの食料システム戦略を策定し、2050年までに有機農地を25%に拡大、その大口消費先として、学校給食を視野に入れている。</p> <p>(1) 本市における農薬使用の現状について 農作物へのグリホサート、ネオニコチノイド系農薬使用の現状を伺う。</p> <p>(2) オーガニック農業の推進について 有機農業の現状や課題等を明らかにした上で有機農業に関する受け入れ体制の整備や定着、拡大に向けた支援など有機農業の取組推進を図る為の推進計画を市として立てるべきと考えるが、見解を伺う。</p> <p>本市では食物アレルギーの有無に関わらず児童生徒が同じ給食を食べられるようユニバーサル給食が始まっているが、根本的においしい・安全・安心な給食は「可能な限り食品添加物を避け、化学調味料を使わず」「無・減農薬、化学肥料不使用、非遺伝子組み換えの食材」を提供できることで実現されると考える。農業の担い手不足や作物の収量確保の観点から未だ有機化の取組は課題が多くあるものの、オーガニック推進を図り、子どもたちへ豊かな土地、安全な食と健康を守り引き継ぐ必要性がある。</p> <p>(3) 学校給食で使用する食材や調味料の品質について ア 提供される米飯の農薬・化学肥料の使用について伺う。 イ 使用する調味料について伺う。 ウ 加工食品における添加物の使用について伺う。 エ 食材一品からでも有機を取り入れたオーガニックデーを設けることについて伺う。</p>	

質問項目 No. 2	保育園での使用済み紙おむつ処分の取扱いについて	備考
要 旨	<p>保育所などで出た使用済みのおむつの処分について、厚生労働省は保護者が持ち帰るのではなく保育所で処分することを推奨し、補助金でゴミ箱なども購入できると全国の自治体に通知した。</p> <p>本件については度々議会で取り上げており「おむつの持ち帰りがなくなるのは保護者の大きな負担軽減となる。保育園も子ども毎におむつを振り分ける業務がなくなる。」との加藤厚生労働大臣の保護者・保育士両方に理解を示す発言は大変心強いものであり、自治体の対応に期待する。</p> <p>(1) 保育園における使用済み紙おむつ処分の取扱いについて今後の対応を伺う。</p>	

質問項目 No. 3	民間事業所等との更なる災害協定・連携について	備考
要 旨	<p>気候変動などの影響により激甚化する風水害が頻発化している。こうした大規模災害発生時には、情報通信網やライフラインの途絶や、公共機能の対応力の著しい低下が想定される為、市としても各業界団体や民間企業等との災害協定等で連携を図っているところである。在宅避難や、車中泊避難の推進がなされる中で災害との向き合い方が変化しつつあるため、連携の在り方も変化に併せ進めるべきと考える。</p> <p>(1) 大規模災害発生時の車中泊避難について ア 車中泊避難についての市の考え方を伺う。 イ 車中泊避難については、避難の在り方の変化に併せガイドブック等に記載されてはどうか、考えを伺う。</p> <p>(2) 災害時の傷病者・要配慮者の緊急搬送について 市内の介護・福祉タクシー事業者等との連携を呼びかける考えについて伺う。</p> <p>(3) 様々な課題に応じた協定連携について 昨今、要配慮者の保護に柔軟に対応できる「動く避難所」としてキャンピングカー導入が注目されており、災害支援に高い可能性があるとして貸出しに関する協定を結ぶ自治体も増えている。避難の在り方の変容により生じる様々な課題に、民間事業所との更なる災害協定や連携で応じて頂きたいと考えるが、見解を伺う。</p>	

質問項目 No. 1	小牧市における小中学生の不登校について	備考
要 旨	<p>文部科学省の発表によると、全国の国公私立小中学校において令和3年度の積算で30日以上欠席した不登校の児童生徒は24万4,940人となり、令和2年度より24.9%に当たる4万8,813人増えて過去最多であった。</p> <p>新型コロナウイルス感染症の影響で、学校や家庭における生活や環境が大きく変化し、全国において過去最多の不登校数であったことは、大変危惧するところである。</p> <p>(1) 小牧市の小中学生の不登校対策について ア 不登校の児童生徒数の推移について問う。 イ 令和3年度の不登校の児童生徒数が占める割合について問う。 ウ 現在の対応状況について問う。</p>	

質問項目 No. 1	高齢者タクシー料金助成事業について	備考
要 旨	<p>令和4年10月より高齢者の外出支援が拡充された。 要介護1以上の方を対象に、一般タクシーの初乗り料金分を助成する利用券を12枚配布した。令和5年度からは年間24枚配布する。まだ始まったばかりの制度ですがその利用実績をたずねる。</p> <p>(1) 高齢者タクシー料金助成事業について ア 12月末の要介護度別の人数を伺う。 イ 12月末での利用券を配布した方の要介護度別の人数を伺う。 ウ 要介護度別の利用実績を伺う。</p> <p>(2) 年齢で一律のタクシー券補助制度について ア 近隣市町の実施状況を伺う。 イ 75歳以上、80歳以上にタクシー利用券を配布した場合いくらかかるのか伺う。</p>	

質問項目 No. 1	0歳児から2歳児までの保育料無償化について	備考
要 旨	<p>(1) 給食費の負担について ア 0歳児から2歳児の給食費の負担はないと聞くが、その理由を問う。 イ 公平性からみても、3歳児から5歳児の給食費を無償にすべきと思うがどうか問う。</p> <p>(2) 受け入れ体制について ア 利用定員に対する入所実態はどうなっているのか、公立・私立保育園、認定こども園、小規模保育事業所別、年齢別に問う。 イ 無償化に伴い入所希望児童が増えると思うが、対応はどのようにするのか問う。</p> <p>(3) 保育士の増員について 0歳児から2歳児の保育士配置は、正規保育士が少なく会計年度任用職員で対応している実態がある。配置基準に基づき正規保育士を配置すべきだ。そのための保育士の増員をどのように考えているか問う。</p>	

質問項目 No. 2	職員配置について	備考
要 旨	<p>(1) 職員配置について 課長補佐職を減らして係長以下の実務人数を増やすほうが効率的に仕事ができるということで課長補佐職を減らしてきたが、係長以下の実務人数をどのように増やしてきたのか問う。</p> <p>(2) 職員不足について 有給休暇が取れない・残業が減らないという実態からみると、職員を増やす必要があると思うが見解を問う。</p>	

質問項目 No. 1	地域とともにある学校づくりについて	備考
要 旨	<p>地域とともにある学校づくりを進める中で、市内小中学校の全25校で、「熟議」と「協働」の小牧市モデルのコミュニティ・スクールが一斉にスタートしている。5年を迎えるにあたり、本市のコミュニティ・スクールがどのように機能しているのか。また、地震などの大規模災害が発生した場合、小中学校には地域の方々の多くが避難する。近年多くの住民がペットを飼い、災害時には一緒に避難したいという要望が強い。ペットとともに避難生活ができるよう体制づくりを進めるべきではないかと考えることから、大規模災害時のペットとの避難の考え方について問う。非行・いじめ問題は根深く、学校・家庭・地域と連携し、解決していく必要があると思う。</p> <p>(1) 小牧市モデルのコミュニティ・スクールについて ア 現在の状況について問う。 イ 学校生活の情報発信について問う。</p> <p>(2) 大規模災害時のペットとの避難について 大規模災害時に学校に避難された場合、ペットとともに避難生活ができるよう体制づくりを進めるべきと考えるが所見を問う。</p> <p>(3) 地域で見守る非行・いじめ対策について 非行・いじめ問題を解決するためには、学校・家庭・地域と連携する必要があるが、現状について問う。</p>	